

所管委員会	文教経済常任委員会
資料No.	参考資料No.1
提出課	観光振興課

※ 第四次観光振興5か年計画の評価・検証(庁内検討会議等により実施)、上越市の観光に関するアンケート調査(観光関係団体を対象)及びGAP調査(インターネットによる調査)に基づく

分析項目	主な分析内容(総括)
1 観光への広域的な要請・課題	① 北陸新幹線の開業や小木直江津航路の高速化、上信越自動車道の4車線化(平成30年度完成予定)といった広域交通の整備やネットワーク化が図られることは、交流可能圏域が大きく拡大し、円滑な交通確保がされ、上越市を核とする周辺観光の充実を促進するなど、当市への観光振興に大きく寄与することへの期待 ② 2020年オリンピック・パラリンピック東京大会が、近年の訪日外国人の増加による外国人旅行者の誘致に拍車をかけると考えられることから、官民一体となった強力な取組が必要
2 観光への地域的な要請・課題	① 海水浴場を中心とした海浜周辺部の集客増への期待 ② 関東から北陸や東北への中継地点としての立ち寄りによる観光の促進への期待 ③ 海や山、田園などの「自然景観」、米、酒、魚など豊富な「食」、雪国ならではの季節の変化がもたらす「四季折々の魅力」の活用への期待 ④ 認知度や関心度が高い「春日山城跡周辺」や「城下町高田」の歴史、文化的魅力の継続的活用への期待 ⑤ 平成30年春に開館する新水族博物館が交流人口拡大のための拠点施設となることへの期待 ⑥ 観光に対する地域住民の意識の醸成への期待 ⑦ 観光客の地域鉄道(えちごキめき鉄道、ほくほく線)の利用促進への期待 ⑧ 市の財源の見直しが厳しく、取り組むべき施策の精査が必要
3 観光資源の分析評価(強み弱み)	① 海資源及び山資源の両方が揃う ② 食に関する優れた素材や、歴史ある土地柄、歴史・文化的資源など、観光資源化できる可能性の高い多くの資源・素材を有する ③ 資源が分散しており、移動時間を要するため周辺には非効率的 ④ 四季ごとに、集客力が高いイベントを数多く開催している一方で、通年で安定的な集客力は低い ⑤ 高田公園の親代会以外での魅力づくり、春日山城跡周辺観光スポットのネットワーク化、寺町寺院群や中心市街地の回遊促進等が不十分であるなど、観光資源のポテンシャルを十分にいかしきれていない
4 関連資源や地域条件の分析	① 新幹線、高速道路、在来鉄道、航路の結節点であり、乗り換え時の立ち寄り機会が期待できる。その一方、各交通手段における接続性が悪く、2次交通が弱い ② 先進的かつ多様な「利便」への取組とノウハウの蓄積がある ③ ユニバーサルデザインへの対応など、多様な観光旅行者に対応できるよう受入体制を充実させる必要がある ④ 観光に携わる担い手や関連組織同士の連携が不足している
5 社会条件や市場動向の分析(マーケットイン)	① 日本における人口減少、高齢化の進行により、国内の集客競争の激化が予想される ② 2030年頃までに世界人口の66%がアジア太平洋地域に集中し、アジアのマーケットが拡大する一方、日本の中間所得層の購買力は半減する ③ 国内旅行マーケットは縮小傾向である一方、歴史的・文化的資源を保有する地域への旅行意欲の高さは高水準で推移している ④ モバイル機器の利用率向上により、簡便に情報収集が可能となっており、かつ、臨場感ある共有の機会が拡大している ⑤ 都市住民の自然志向が高まっている
6 競合案件の検討(脅威等)	① 北陸新幹線の開業により、観光地として強い吸引力を有する富山や金沢が新たな競合地として顕在化している ② 隣接する妙高市の観光資源は、上越市の有する観光資源(スノースポーツ、トレッキング・登山など)とも一致し、強い優位性を持っている ③ 上越市は観光地・旅行先としての認知度が低い

○計画の位置付け

上越市第6次総合計画を下支えする計画と位置付け、同計画の産業・経済分野で掲げる目標を達成するための具体的な事業を展開するもの(計画期間:平成28年度~31年度(4年間))

○将来の空間イメージや来訪者の活動イメージ

市民が誇りと愛着を持ち、住み続けたいと思う「すこやかなまち」を目指すとともに、観光に対する市民の意識を醸成することにより、「住んでよし、訪れてよし」の魅力的な地域として来訪者から選ばれるまちとなる  
 →自然や歴史・文化などの地域資源の魅力があふれるまちなか空間をいかした回遊  
 →レクリエーション・体験(海水浴、スノースポーツ、トレッキング、グリーンツーリズム等)  
 住んでよし、訪れてよし! 人と地域が輝く上越(仮)  
 ~選ばれる観光地域づくり~

○重点方針

- 1 北陸新幹線の開業後の効果を持続させるための施策の展開
- 2 新水族博物館のオープン効果をいかした施策の展開
- 3 オリンピック・パラリンピック東京の開催を見据えた合宿招致とインバウンドの推進・強化
- 4 自然、歴史、文化、食など当市ならではの地域資源を活用した観光産業の振興
- 5 農林水産業や伝統的な地場産業の振興と中心市街地・商店街の活性化への寄与

○集客エリア

重点集客エリア(高田周辺、春日山周辺、新水族博物館周辺)  
 集客エリア(中山間地域等)

○主要な誘致エリア

- 首都圏(十中部、関西圏)  
 →自然や歴史など、価値あるまちなか空間を活かした回遊  
 →グリーンツーリズム  
 近隣圏 →レクリエーション(海水浴を中心として)  
 地元圏 →レクリエーション(スノースポーツを中心として)

○主要な誘致ターゲット層

- 自然や歴史など価値あるまちなか空間を活かした回遊  
 →北陸新幹線利用者(立ち寄りをきっかけにして回遊)など  
 レクリエーション(海水浴、スノースポーツ、トレッキング等)  
 →ファミリー、若年層、中高年層など  
 グリーンツーリズム →学校、企業、ファミリーなど

○数値目標

観光入込 (H26)5,468,573人→(H31)7,600,000人  
 宿泊定員稼働率 (H26)31.4%→(H31)43.4%  
 ※ 第6次総合計画に掲げる数値目標であり、「新潟県観光動向の概況」及び「新潟県観光入込客統計」に基づく  
 観光消費額 (H26)273億2,900万円→(H31)379億3,100万円  
 ※ 観光庁「観光入込客統計に関する共通基盤」に基づいたサンプル調査に基づく  
 滞在満足度 (H26)77.7点→(H31)80.8点 ※100点満点  
 再訪問意向 (H26)81.3点→(H31)83.4点 ※100点満点  
 ※ 「信越観光圏観光客満足度調査」に基づく

【基本方針】

- 1 魅力ある観光地域づくりのための持続的かつ基礎的な取組

【基本施策】

(1) 地域資源の魅力向上 Product	(2) 受入環境の整備 Place	(3) 人材育成、組織強化 People	(4) 観光情報の充実と効果的な情報発信、プロモーション Promotion
--------------------------	----------------------	-------------------------	---

【施策の柱】

- ① 食と特産品の魅力向上(7取組)
  - ② 学びや体験を通じた交流促進(8取組)
  - ③ 地域資源の保全・伝承(8取組)
  - ④ 潜在的な魅力の発掘・活用(3取組)
  - ① 快適空間の提供(2取組)
  - ② 交通利便性の向上・活用(5取組)
  - ③ 観光案内機能の充実(6取組)
  - ① 地域資源を知る機会(2取組)
  - ② 人材の育成と活用(2取組)
  - ③ 団体・組織の連携強化(1取組)
  - ① ニーズの把握・分析(3取組)
  - ② 情報発信(7取組)
  - ③ プロモーション強化(3取組)
- 2 新たな交流機会の創出と誘客促進の取組
    - (1) MICEの誘致
      - ① オリンピック・パラリンピック合宿招致(2取組)
      - ② 官民連携による体制強化(5取組)
    - (2) インバウンドの推進
      - ① 外国人旅行者の受入環境整備(4取組)
      - ② 外国人旅行者向け商品造成・販売(2取組)
      - ③ 戦略的な情報発信、プロモーション(2取組)
- 3 観光旅行者誘致強化のための重点集客エリアを中心とした回遊形成
    - (1) 重点集客エリアの魅力向上と回遊形成
      - ① 高田周辺エリアの魅力向上と回遊形成(8取組)
      - ② 春日山城跡周辺エリアの魅力向上と回遊形成(3取組)
      - ③ 新水族博物館を中心とした日本海沿岸エリアの魅力向上と回遊形成(8取組)
    - (2) 集客エリアの魅力向上
      - ① 中山間地域・田園地域エリアの魅力向上(2取組)

全93取組

■重点集客エリア

現状でも高い集客力を持つ、または、今後(近い将来)集客力が高まることが予測できる

A 高田周辺エリア  
 親代会を軸とし、ターゲットを明確化した誘客促進とエリア内の魅力向上を図る

B 春日山城跡周辺エリア  
 春日山城跡の環境整備を進めるとともに、滞在時間を確保できるエリア内の魅力向上を図る

C 新水族博物館を中心とした日本海沿岸エリア  
 新施設を中心とし、食やアクティビティ、温泉など、エリア内での新しい魅力を創造する

■集客エリア(中山間地域・田園地域)  
 体験やアウトドアなど、特定の目的で集客力がある重点集客エリアの地域資源や集客テーマに関連性があり、回遊が見込める重点集客エリアに対して魅力的な資源(食材、土産物等)を投入できる  
 ※ 重点集客エリア内、重点集客エリア間、重点集客エリア・集客エリア間、近隣自治体を含むエリアなど多様な回遊を展開



平成 26 年 9 月に作成した「板倉観光の方向性について」の視点による板倉区を取組

(1) 着地型観光を推進するための取組

①着地型観光を推進するための組織づくり (中期) ※

- ・「えしんの里観光公社」が地域観光の真の担い手となるよう、事務局長を設置するなど人員体制を強化した。
- ・板倉区には、観光・地域振興等の任意活動団体が多数あるが、横の繋がりが弱いことから、各団体が連携する「板倉観光振興協議会」が設立される。地域が一体となって取り組むことに、市として支援する。

②着地点のさらなる魅力づくりと情報発信 (中期)

- ・優れた観光資源である「やすらぎ荘」について、客室トイレを新設するなど改修し、利便性向上と集客力向上を図った。
- ・信越トレイル道の適切な維持管理を行うとともに、所管する温浴施設によるトレッキングツアーを実施し、愛好者のすそ野を拡大させている。
- ・27 年度に 10 周年を迎えた「えしんの里記念館」で、著名な五木寛之氏を招き講演会を開催し、市内外に広く存在をアピールした。
- ・板倉・清里・牧・中郷の観光パンフレットを 27 年 3 月に作成し、新幹線駅等に設置するなど、情報発信を行っている。

③観光の魅力を高める着地点周辺の観光資源の充実 (中期)

- ・核となる観光資源と、その周辺の観光資源を結ぶため、核施設には、観光案内看板や誘導看板を設置。また、それぞれの地域で地域活動支援事業を活用した案内看板等の設置や、観光施設の整備により、個々の観光スポットを有機的に結び付ける取組を進める。

④それぞれの観光資源にかかわる「人・組織」の育成 (長期)

- ・「えしんの里観光公社」について、人員体制など機能強化が図られた。
- ・地域が一体となって観光に取り組む「板倉観光振興協議会」の活動を、市として支援する。

⑤着地点へのアクセスの整備 (短期)

- ・観光地点を結ぶ道路を適切に維持管理するとともに、案内看板を適切に維持管理する。
- ・公共交通機関である頭南バス等の運行を支援する。

(2) 通年型観光を実現するための取組

①年間を通じた誘客に必要な取組 (中期)

- ・やすらぎ荘は、冬期間、利用者が減少することから、光ヶ原でスキーやスノーボードを行うキャットツアーを開催するなど利用者の確保に努め、年間を通じた誘客を進める。

②近隣宿泊地(温泉)や観光地からの誘客の実現 (中期)

- ・板倉区管内の観光パンフレットを新幹線駅等に設置するとともに、市内の観光施設等に観光パンフレットを設置するなどPRを行う。
- ・信越トレイルは、関係する妙高市、十日町市、飯山市等と連携し、振興を図る。

③板倉区の食のイメージの確立 (中期)

- ・板倉区中山間地域農業振興会が、国の農村集落活性化支援事業を活用して取り組んでいる、庭先集荷、加工品開発、イベント販売等を支援する。平成 28 年度は、地元そば粉を使用したそば乾麺を開発予定。
- ・光ヶ原のソバと地域の魅力発信のため、お盆の期間中、地元有志により、光ヶ原高原でソバ等を提供した。地域の活性化につながるこうした取組を、今後も支援する。
- ・平成 27 年度は、地域活動支援事業により、いたくら亭の取組を支援した。

(3) 地域にお金を落としてもらう仕組みづくり

①住民が観光に参加できる仕組みづくり (中期)

- ・板倉区での越後田舎体験は、これまで取組が進まなかったが、市民への広報や関係者との協議により 28 年度から開始できた。他区に比べ受入家庭が少ないことから、今後はさらなる拡充を図る。
- ・地域活動支援事業により、地域住民が積極的に活動・参加することを支援していく。

(4) モデルコース・モデルプランの設定

①ターゲットとする対象者の絞り込み (中期)

- ・信越トレイル、えしんの里は、ターゲットが明確であり、それぞれに情報を発信する。

②板倉区を中心とした市南部の広域観光ルートの確立 (短期)

- ・信越トレイルは、関係する妙高市、十日町市、飯山市等と連携し、広域的に取り組んでいく。
- ・やすらぎ荘では、ジャスコでの買い物と入浴をセットにしたツアーを実施するとともに、歴史文化施設や観光スポットを周遊するプランを実施している。

※長期：5 年以内、 中期：3 年以内、 短期：新幹線開業前

## 県道上越飯山線 道路整備の ストック効果

道路整備促進により  
広域的な観光及び地域交流の  
拠点がさらに活発になります。

道路整備が行われること  
での更なる効果

- 近隣市町村との広域観光・産業の活性化が促進されます。
- 当該地域周辺の自然環境を拠点とした観光振興の誘致に繋がります。
- 新潟県・長野県の両県の広域観光ルートとして安全で利便性のあるルートに生まれ変わります
- 地区内外からの交流や連携がさらに図ることができます。
- 中山間地の定住促進や活性化が図れます。

### 主要地方道上越飯山線整備促進路線図



資料：板倉まちづくり振興会「主要地方道上越飯山線改良促進の活用構想」より抜粋

### 活用構想

#### ①信越トレイル

トレイルの維持管理や、トレイル拠点施設である「グリーンパル光原荘」を活用し、新潟県と長野県の交流を促進します。

#### ②広大な草原景観

牧場跡地である光ヶ原高原は、広大な草原が広がり、街なかの人々の心の拠り所になっています。来訪者を増やし心のリフレッシュを図ります。

#### ③豊かな自然とのふれあい

光ヶ原高原の「みずばしょうの森」・「わさび田の森」は、平成27年度に自然環境保全地域に指定され、貴重な自然があることが認められました。山野草や小動物とふれあう機会を増やします。

#### ④地域活性化

光ヶ原高原の利用促進のため、地域住民団体「板倉まちづくり振興会」が、様々なイベントや活動を行うことで、地域の活性化が図られます。